

ジオラマ名古屋

表題と写真は、名古屋都市センターの「まちづくり広場」に展示されているもので、名古屋を広域的・立体的に知るうえで参考になる。都市センターに行った折によく眺める展示物である。レポートで紹介したいので、写真に撮らせてもらった。

2005年4月1日現在とあり、伊勢湾上空から、名古屋の中心街の方向を眺めた様子が描かれている。

この写真にはないが、常滑沖の中部国際空港から離陸した飛行機も写っている。写真右上の緑（東部丘陵）のあたりに、長久手と瀬戸の万博会場も赤く表示されている。

ジオラマとは、ネットで検索してみると、フランス語で「ディオラマ」



とあり、展示物とその周辺環境・背景を立体的に表現する方法で、博物館展示方法の一つとされる。東京と横浜の「ジオラマ写真」を購入して、大学の講義などで使ったことがある。

この「ジオラマ名古屋」は、アルプスの山々から伊勢湾までが、立体的に一望できる。遠くに見える白い山並みは、左から北アルプス、中央アルプス、南アルプスへと続く。北アルプスのすこし右に高くそびえるのが御嶽山だ。中央アルプスと南アルプスの中間には恵那山も見える。御嶽山は天気がよいと、都市センターや自宅の階段あたりからも、その白い山並みを眺めることができる。

アルプスの山々、そして東部丘陵などの里山、そこを流れる庄内川などの川筋も確認できる。山と川、そして海という、自然の「つながり」がジオラマ地図からもわかる。伊勢湾総合対策協働会が2002年に発行した『伊勢湾マップ』を手に入れ、講義でも活用した。伊勢湾マップにより、海と川の関係、伊勢湾と木曾川・長良川・揖斐川などの河川との「つながり」を説明した。昔から地図をずっと眺めるのが好きであり、「ジオラマ名古屋」により講義のことなどを懐かしく思い起こした。

(2015年1月26日)